



尾久八幡

令和7年度12月号

令和7年12月1日発行

荒川区立尾久八幡中学校

校長 稲葉 裕之

共に笑い会える場の楽しさ、当意即妙に言葉を考える知的な面白さを感じる機会となりました。

ねづっちとBちゃんの国語科出前授業 「なぞかけライブショー」 11月5日（水）

本校では、外部人材の活用を積極的に行うことで、学習活動の充実を図っています。今回は、お笑いタレントのねづっちさんとBちゃんさんを講師にお迎えし、11月5日（水）5時間目、国語科出前授業「なぞかけライブショー」を開催しました。



最初にBちゃんさんが登場、ギター漫談では、リズムの乗ったかけ声で巻き込みながら観客を元気にする、楽しい芸で楽しませていただきました。さらに、大道芸のコーナーでは、観客参加型の舞台をみんなで応援したり、Bちゃんさんのみごとな芸に驚かされたりと、思い切り大声で笑えるステージでした。

そして、ねづっちさんによる「なぞかけライブ」、テンポのよい漫談に続き、「なぞかけ」を披露していただきました。すぐに「おー！」となるものもあれば、「ん…あ、なるほど！」となるなど、言葉の意味を考えながら楽しむ面白さを体験しました。その後、生徒が授業でつくった「なぞかけ」を講評していただいたり、生徒からのお題に即興で「オチ」をつくっていただくなど、交流しながら「かけことば」の面白さを堪能、ねづっちさんの頭の回転のよさに驚きながら、その芸の凄さ、素晴らしさを実感しました。



今回の取り組みを通じて、共に笑い会える場の楽しさ、当意即妙に言葉を考える知的な面白さなどを感じることができ、人との関わり方や語彙について考える機会となりました。このたびは本校のため、大変お忙しいなか本校にお越しいただき、誠にありがとうございました。

本校ではこの3年間、“笑い”をテーマに、様々な方を講師にお招きした講演会を実施してきました。

令和5年度

国際理解講演会 「大島希巳江先生の英語落語」

神奈川大学教授 大島希巳江 先生は、“笑いとユーモアの効果”的研究者で、その一環として“英語落語”的海外公演をプロデュース、自身も演じられるなど、その取り組みは中学校英語教科書「NEW CROWN」にも掲載されています。当日は、「世界の笑いとユーモア」「英語落語と日本文化」等についてのご講演に続き、“英語落語”を実演いただきました。講演では次のようなお話をありました。



海外でのスピーチでジョークを交えるのは、聞き手を飽きさせない⇒相手を笑顔にする=相手を大切するという意味があります。アメリカのユーモア学者の言葉にも、こんなものがあります。

「ユーモアは相手への思いやり」。

令和6年度

道徳授業地区公開講座 「日本一学校を回るお笑いコンビ“オシエルズ”講演会」

“オシエルズ”さんは、「笑いとコミュニケーション教育」「表現とコミュニケーション」などをテーマに講演会やワークショップを開催、様々な大学で非常勤講師も勤めています。学校関係にも漫才形式の出前授業などを実施、令和6年度はのべ166校を訪問しています。当日は“人を傷つける笑い・傷つけない笑い”をテーマに、自身の体験談やお笑いライブの後、交流することで“笑い”的大切さを体感するゲームエクササイズを行っていただきました。講演では以下の言葉をいただきました。



- ・ “笑い”は人のためにするもの、自分のためにするものは“ふざけ”である
- ・ “楽しい笑い”とは、『相手とつながる』こと、『相手をうけいれる』こと

そして今回、令和7年度

国語科出前授業 「ねづっちとBちゃんの『なぞかけライブショー』」

ねづっちさんに紹介していただいた「なぞかけ 基本の3カ条」の1つがこれでした。

- ・他人の「なぞかけ」をけなさない



最近、SNSやTVを観ていると、他人を馬鹿にしたり、おとしめたりすることで笑うようなものがあります。そこには「相手への配慮や思いやり、気遣い」がありません。本校の校訓は「品格」です。堅苦しく聞こえますが、別に難しいことではなく、その基本は「相手がいることを考えた言動」、それを“品がある”=「品格」というのではないでしょうか。みなさんにはそうしたことの分かる大人になってほしい。今回の講演も、そうした思いも含めて、振り返ってくれると嬉しいです。

全国レベルの大会に進出、すばらしい結果を出してくれました。

日本管楽合奏コンテスト全国大会 A部門 優秀賞・ヤマハ賞 11月1日(土)



吹奏楽部は、11月1日(土)、文京シビックホール 大ホールで開催された第31回 日本管楽合奏コンテスト 全国大会に出場しました。この大会は、公益財団法人日本音楽教育文化振興会の主催で、小学生部門・中学生S/A/B部門・高校生S/A/B部門の七部門が行われ、全国大会では各部門の最優秀グランプリ賞受賞団体に「文部科学大臣賞」が授与されます。本校は、中学生A部門にエントリー、予選審査会で最優秀賞となり、全国大会に出場することになりました。

当日、中学生A部門には、北は北海道から南は鹿児島県までの全国各地から、選ばれた36校が出場しました。結果、本校は「優秀賞」を受賞するとともに、部門ごと1団体のみに授与される「ヤマハ賞」も受賞することができました。さらにその副賞として多機能キーボード「ハーモニーディレクター」もいただきました。吹奏楽部のみなさん、夏の都大会からここまで、3年生を中心によく頑張りました。お疲れさまでした。



荒川区地区代表として都大会へ進出することとなりました。

荒川区中学校演劇発表会 11月2日(日)



11月2日(日)、ムーブ町屋で荒川中学校演劇発表会が開催されました。現在、荒川区立中学校には3校に演劇部があり、本会はその発表の場であるとともに、都大会の地区予選です。本校の「夏芙蓉」は、前週の学芸発表会で発表した演目で、公共施設の会場となった今回も、練習の成果を生かした発表をしてくれました。続く原中学校と諏訪台中学校も、各校の持ち味が光る発表となっていて、興味深く鑑賞させていただきました。同じ演劇に取り組む生徒同士、互いの発表を楽しみながら、交流を図ることができた発表会になりました。

発表会終了後、合評会が開かれ、そのなかで本校が荒川区の地区代表校となりました。東京都中学校連合演劇発表会(都大会)は、大田区民プラザ会場にて、令和7年12月27日(土)・28日(日)及び令和8年1月11日(日)の3日間で行われ、本校は12月28日(日)に出場する予定です。



地域行事で八幡中生が活躍してくれました。

尾久っ子ワクワクまつり 中学生ボランティア 参加 11月2日(日)



11月2日(日)に開催された「尾久っ子ワクワクまつり」に、3名の生徒が「中学生ボランティア」として参加してきました。このイベントは、ゲーム・あそびのコーナーや模擬店など様々なブースがあり、地域の子どもたちが楽しめるもので、「中学生ボランティア」は、各ブースの運営や環境整備などを担当します。

当日、本校の3名は、「あら坊」「あらみい」着ぐるみの中の人役、会場分別ゴミ係、「モックル体験コーナー」の係員を担当し、地域の方々に教えていただきながらお手伝いをさせていただきました。子どもたちを笑顔にする楽しさ、地域の役に立つ喜びなど、充実感を味わえた一日となりました。ボランティア参加してくれた生徒のみなさん、お疲れさまでした。



東京都内の他の中学校と、競技を通じて交流することができました。

TOKYOロボットコンテスト 出場 11月8日(土)



技術部は、11月8日(土)に行われたTOKYOロボットコンテストに出場してきました。この大会は、全国中学生創造ものづくり教育フェアの一環で、ここでは2つの競技部門が実施され、本校は「東京都中学生2足歩行ロボットコンテスト」部門に出場しました。この部門は、定められたレギュレーションに基づきロボットを制作、これを操作して相手のロボットを倒したり、足以外の部品を床面に付けたら勝ちとなる対戦型競技で、トーナメント方式で行われました。

当時は、東京都内の公立私立中学校から100名以上の生徒が参加し、本校からも6名が参加=6台エントリーしました。結果は、1台が予選ブロックでベスト4入りを果たしました。自作したロボットを、工夫を凝らし改良していく面白さ、それを実際に動かして対戦する楽しさを味わいながら、他の中学校とも交流を図ることができた大会となりました。技術部のみなさん、お疲れさまでした。

